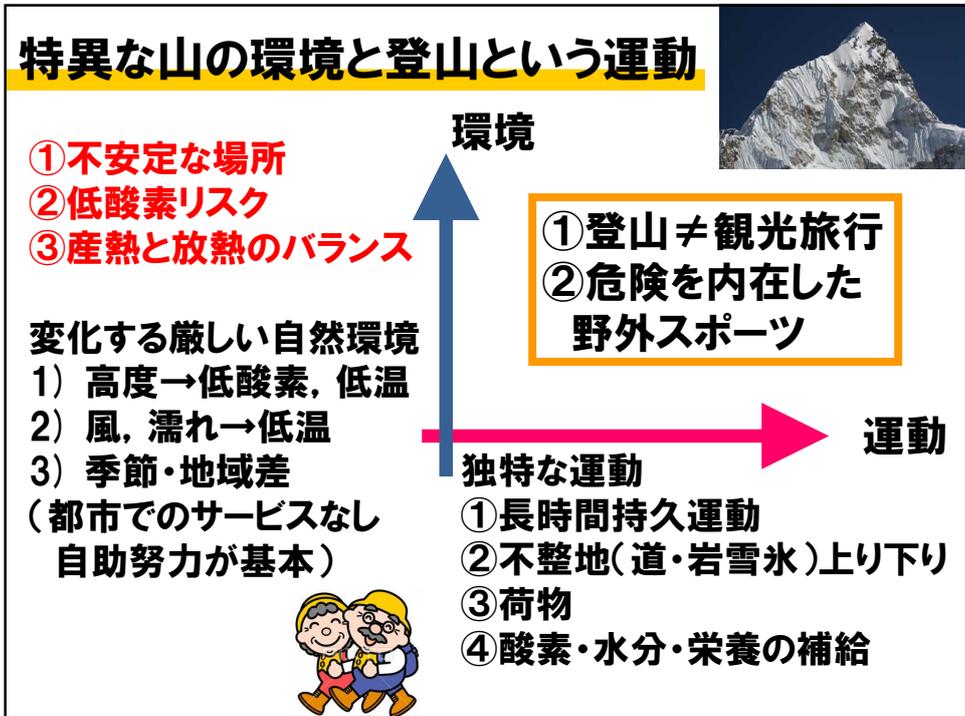


**第3回有識者会議 スポーツ庁  
H29年11月7日**

- 1. 冬山登山の定義**
- 2. 安全な場所での基礎的な訓練の範囲**
- 3. 指導者の条件**

**国立登山研修所 専門調査委員 北村憲彦**



## 1. 冬山の定義について

- 1) 日本(の山)における季節 特定の月日で指定は困難  
南北に長い日本列島, 標高の違い, 気象状況の差異大きい
- 2) 高校生の冬山登山禁止する取扱いは地域ごとに異なる.  
(各都道府県教育委員会)
- 3) 国立登山研修所における冬山登山の場合  
ア. 国立登山研修所では特定の期間を明示していない.  
イ. 冬山登山のリスク3要素①寒冷②雪崩③滑落を考慮  
例) 大日岳～立山周辺 積雪・残雪期10月～6月  
冬山と呼べる状況になる日がある 11月～4月

### (参考)冬の定義

- 例1) 都市部において暦の上では立冬～立春
- 例2) 広辞苑では、「俗に12月～2月を冬という」
- 例3) 統計を扱うための定義
  - ①警察庁:12/1～2/末日
  - ②富山県警:12/1～2/末日(平成21年～)
  - ③富山県警:12/1～2/15(～平成20年)
  - ④長野県警:12/1～3/31

## 2. 安全な場所での基礎的な訓練の範囲

### 安全な場所での実施

- 1) 雪崩の可能性のない場所(降雪等の状況変化にも注意)
- 2) 滑落の可能性のない場所(急斜面, 積雪状況 " )
- 3) 気象情報・登山情報(判断)が発信できる本部の設置

### 高校登山(冬山)における基礎的な訓練

- 冬山(積雪のある場所)での2泊3日以内の生活・歩行体験  
(注) 獲得目標の明確化, そのために体験の適切な質・量で指導
- 1) 積雪のある場所でのテント生活技術
  - 2) " 登頂を目的としない歩行技術
  - 3) 雪の上を安全に歩くために役立つ装備の使い方の練習

### 例) 国立登山研修所の大学生冬山研修会

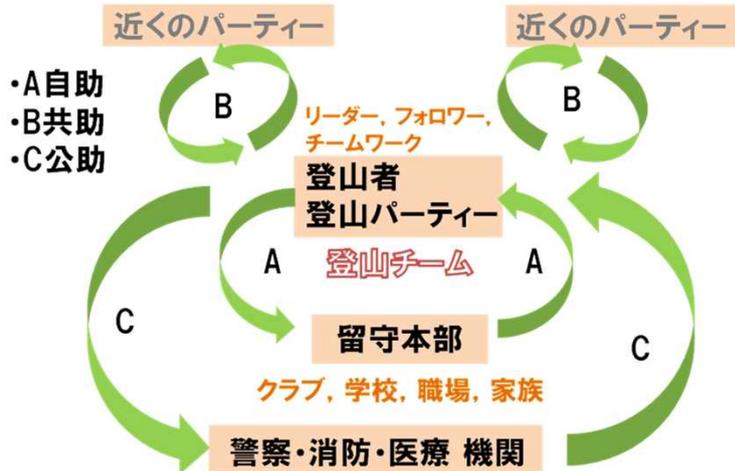
大日岳に向かうという設定で計画と準備→登頂を目的とせず, 行程途中の安全な行動に重きを置いて実践的に実習.

- 1) そのための周到な現地事前調査
- 2) 冬山前進基地(山小屋)の整備
- 3) 講師の継続的な研修と情報共有

補足) 高校生の登山を安全にするための方策1

指導者の資質を補う支援体制

単独登山よりも < 登山パーティーよりも < 登山チーム

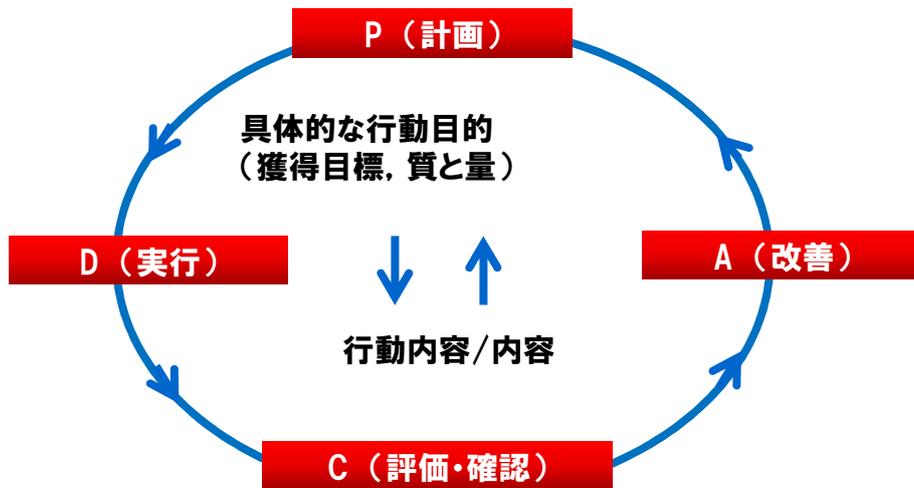


「リスクマネジメントとダメージコントロール」 村越真, 登山研修 vol. 32 (2017), 44-54;  
同, 登山文化 vol. 18 (2017), 52-62.

補足) 高校生の登山を安全にするための方策2

講習会や日ごろの山行における実行計画

- 1) 生徒に獲得させたい具体的な目標(獲得目標)
- 2) そのための実技の適切な質と量(体験の質と量)



### 3. 指導者の条件

(広義に指導者:登山パーティーのリーダー, 講習会の講師や引率者)

- 1) 目的に沿った登山の行動(内容・範囲)の管理
  - ・登山におけるリスクマネジメントの実践
  - ・ “ ” ダメージコントロールの実践
- 2) スポーツ指導員資格, 登山ガイド資格, 公式な登山講師
- 3) 安全登山の講習や研修の受講
- 4) 定期的に安全登山の知識や実技の更新
- 5) 登山経験豊富な指導者との定期的な交流

例) 日本体育協会スポーツ指導員(山岳)

- ・登山歴の審査
- ・一般課程と専門課程(実技・筆記)の試験
- ・4年間で1回以上の研修\*の修了
- ・登山講習会での指導実績

\*日本山岳・スポーツクラミング協会(各県山岳連盟/各県山岳協会も含む)および国立登山研修所 等の指導者研修会